

# ”ため池支援センターだより”

vol.1 R4.3.31 「奈良県ため池支援センター」

東日本大震災では、ため池決壊により尊い命が失われるとともに、住宅や農地などでも被害が発生しており、大規模地震に備えた耐震照査と必要な整備の実施が急務となっています。

ため池の多くは、水利組合や集落などの受益者を主体とした組織によって管理されていますが、農家戸数の減少や土地利用の変化から管理及び監視体制の弱体化が懸念されています。

ため池の周囲には都市化や混住化が進んでいるところも多く存在し、事故の危険性が増えています。このような中、安全管理に対する施設管理者の意識高揚、関係者間の連携などが重要となっています。

## 【ため池管理者の適正管理をサポートします】

- 適正管理の手法や補修・補強等の助言、啓発活動の実施 ●

### 『令和3年度の取り組み実績』

#### ①ため池の相談対応

- ・ため池に関する相談窓口を設置し、補修等についての相談を19件受け付けました。  
(類似3案件を添付しておりますのでご参照下さい)

農業用ため池に関する相談窓口  
(奈良県土地改良事業団体連合会)  
受付 毎週火・木曜日 10:00~12:00、13:00~16:00  
連絡先☎ 0744-29-1310

#### ②ため池の情報管理

- ・市町村等が行うため池パトロール結果(167箇所)や相談対応(19件)の状況を農地地図情報システムを用いてデータベース整理を行いました。

#### ③普及啓発活動

- ・奈良県土地改良事業団体連合会のホームページ上にため池支援センターのページを立ち上げました。
- ・今年度より”ため池支援センターだより”を不定期ではありますが発行し、多様な情報を発信して参ります。

## 老朽化等で相談を受けた類似3案件

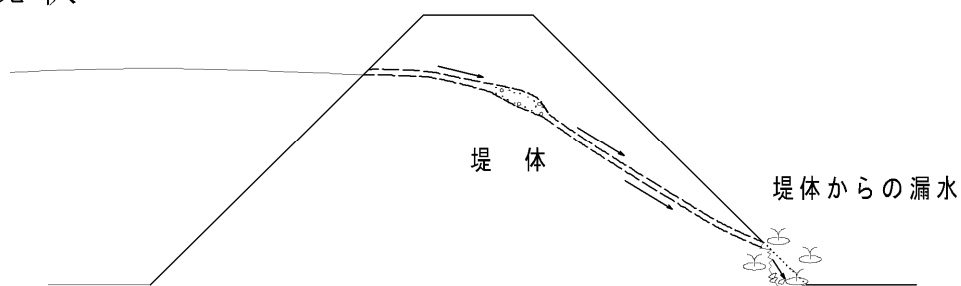
### 案件① 堤体下流法尻からの漏水



拡大



現状



☆放置した場合の問題点

- ・パイピング（水みち）による漏水が進行すれば堤体内に陥没が生じ、堤体決壊の危険性が大きくなります。
- ・漏水によりため池貯水量が減少します。
- ・堤体自体が不安定になるため維持管理が困難になります。

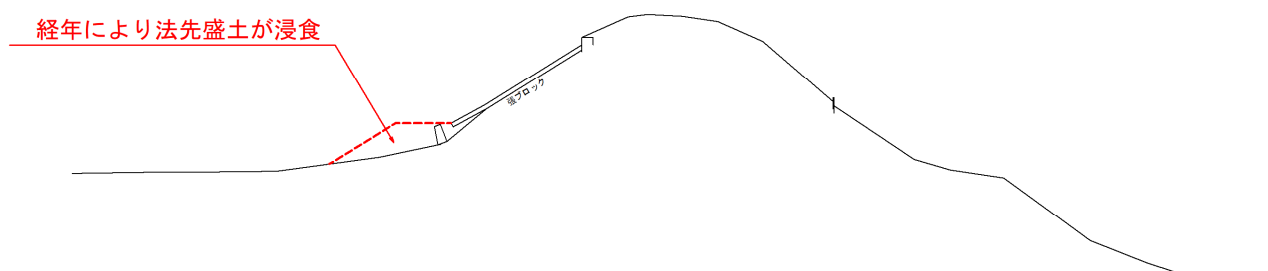
☆日常管理のポイント

- ・ため池の漏水は、堤体法尻や底樋管出口で多く見られます。このほか、余水吐付近、地山との境界部等も要注意です。このため、漏水は、防災対策上、見落とす事の出来ない重要な事項ですので、漏水箇所を探ると共に、その量を継続的に観察、記録して下さい。

## 案件② 張ブロック基礎の転倒（傾き）



現状



☆放置した場合の問題点

- ・張ブロックの崩壊や沈下が進行し、法面保護としての機能を失います。
- ・上流法面が浸食されやすくなり、堤体が痩せて決壊の危険性が高まります。
- ・堤体自体が不安定になるため維持管理が困難になります。

☆日常管理のポイント

- ・造成当時の張ブロック基礎前面には法先盛土が施されていますが、経年の水位変動が原因で浸食されることが多く見られます。法面の張ブロックは、波浪による波で、堤体が浸食されるのを防ぐための護岸ですので、かんがい期が終わったら、ため池の水を落として護岸の状態を目視確認して下さい。



### 案件③ 土砂吐ゲートの開閉不良



拡大



#### ☆放置した場合の問題点

- ・巻上機が正常に動かないと取水に支障が生じるほか、洪水や地震などの緊急時にため池の水位を下げるができなくなる場合があります。
- ・土砂吐ゲートが開かないとヘドロが堆積し貯水量が減少します。また、除去等に要する維持管理費が増大します。
- ・ヘドロによる悪臭が発生し、環境被害が出ます。
- ・ヘドロにより土圧が増大することで、堤体決壊の危険性が生じます。

#### ☆日常管理のポイント

- ・数年に一度しか落水しないため池では土砂吐ゲートの開閉不良が多く見られます。年に一度は落水して潤滑油の注油や清掃等を行うとともに、腐食の状態にも注意し、施設の動作に異常があった場合は速やかに点検、修理することが必要です。